

Title	教諭 伯爵宗家藏
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300--004">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300--004</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 教諭

伯爵宗家藏

徳川幕府時代に於ける朝鮮信使來聘は幕府の一大行事なり。その聘禮は、鄭重を極め、費用亦た夥多なれば、何人も更革の必要を認めたれども、未だ之を達成せしものあらず。然るに新井白石の幕政に參與するや、尊王敬幕の精神に因り、正徳來聘の際、諸禮を更革して、頗る觀るべきものありき。やがて、信使來府するや、將軍家宣は、暫し役たる對馬守宗義方に『教諭』を與へて、今次改禮の事を信使に諭達せしめたり。

こゝに掲ぐるものは、その原本にして、白石の起草に係り、その得意の狀、想見するに堪へたり。用紙は烏子(縦一尺七寸、横三尺五寸)にして最後の年月日の上に鈐したる『救命之寶』の朱印は方三寸三分許にして、莊重精粹の趣を具へ、將軍の返簡に使用したる『文命之寶』の朱印と共に、黄金を以て特に鑄刻せしめたるものと云ふ。猶ほ此寫眞に因つて、從來傳寫の誤を正すべく、且つ權頭等の様式を知了すべし。

本號所載の拙稿『宗家史料に依る復號一件』の參考資料の一として、宗伯爵家の快諾を得て、こゝに之を掲ぐ。

教領客使

予續承前業繼志述事亦惟隣國之好在懷不  
已以

朝鮮接壤密通行理之命無世不至方其

太祖大王開國始通問於前代恭獻王蓋脩高麗

氏之舊好也自爾兩國使命交際各有禮制相

敦睦者幾二百年及勝國士辰之變兵燹一開

兩國失離積有歲年天厭喪亂眷顧有道我

神祖受命奄有方國徼福其宗社迺遷出令及其

流悅情我前好睦慮歷民時閱以禮制繼不絕

雖然當我華時務在簡易賓主之禮益有闕焉

爾後所因損益隨時取旨未有一定之制當今

嗣德有年禮樂可申起凡高麗國志典丁以書

明受命有司議定賓禮奉之以舊法考之以古

禮度之以二國今使客或怪其有異乎前儀

客使其晚使者謀事補闕行之以禮記不云乎

禮從宜使從俗想宜知悉

正德



月十五日